

(様式1)

令和3年度 学校評価結果報告書(高等学校用)

					学校整理番号	27
					学 校 名	青森県立百石高等学校
					全日制の課程	校舎
(1) 学校教育目標		1 明るく健康で、礼儀正しい生徒の育成 2 自分で目標を定め、それに向かって専心努力する生徒の育成 3 新しい時代を主体的に切り拓く、心豊かで、逞しい生徒の育成				
(2) 現状と課題		基礎学力が定着していない生徒や学習習慣の欠如、基本的生活習慣が身についておらず、目的意識や進路意識も低い生徒が見られる。そこで、将来の自分の夢を持って真剣に進路を考え、学校生活を有意義に過ごすために、学習習慣と基本的生活習慣の確立に向けた指導を行うとともに、普通科においては特色ある教育活動の推進と食物調理科では資格取得を活かした進路活動の充実が課題である。				
(3) 重点目標		1 魅力ある教育活動の推進（魅力ある百石高校の創造）				
		2 学習指導の充実（分かって、できて、おもしろい授業の推進）				
		3 生徒指導の充実（安心・安全な環境作り）				
		4 キャリア教育の充実（夢と進路志望の実現）				
(4) 結果の公表		本報告書を学校ホームページに掲載するとともに、次年度のＰＴＡ総会で保護者に公表する。				
(9) -イ 学校関係者評価委員会の構成						
保護者 1 名・学校評議員 3 名 計 4 名						
自 己 評 価						
番号	(5) 評価項目	(6) 具体的方策	(7) 具体的方策による目標の達成状況	(8) 目標の達成度	(9) -ア 学校関係者からの意見・要望・評価等	(10) 次年度への課題と改善策
1	①学科の特徴を捉えた教育課程を編成する。 ②地域と協力しながら食に関するイベント企画・運営を通して、知識と技術の向上を図る。 ③学校の魅力を積極的に発信する。	①各学科の特徴を捉えた教育課程の編成をする。 ②高校生レストランの実施、地域行事への参加、各種コンテストへの参加。 ③学校ホームページ、学校通信、校門前看板、広報おいらせ、報道等から情報発信を行う。	①各学科とも教育課程の編成が完了した。 ②新型コロナウイルス感染防止対策のため、高校生レストランはドライブスルー形式で弁当販売とした。また、各種コンテストへも多数応募し優秀な成績を収めた。 ③広報おいらせや報道等への情報発信は積極的に実施できたが、学校ホームページ等はリアルタイムで更新できなかった。	B	・独自性や特色ある教育活動については、引き続き推進し、PRや情報発信をしてほしい。 ・高校生レストラン事業については、抜本的に見直す時期ではないか。 ・地域での交流活動により生徒も自ら学び、成長し、地元愛も深めることで高校の魅力化としても有益な活動となる。 ・HPはしっかりと充実させるべきで、もっと簡単に更新できる方法や違う発信方法も考えるべきではないか。	・1年生からの新学習指導要領での教育課程が滞りなく展開できるようにする。 ・高校生レストランは、運営方法を随時検討しながら実施していきたい。また、地域との連携などは、積極的に行っていく。 ・HPなど情報発信については、校内で担当者を決め、積極的に行う。
2	①基礎学力向上のため、教材の精選・工夫・研究に努める。 ②主体的・対話的・協動的な学習態度を育てるために学習環境を整備する。 ③探究活動の充実を図る。	①基礎基本を大切にし、生徒の実態に合わせてながら「分かって、楽しい授業」の実施。 ②ＩＣＴ機器を積極的に活用した授業の展開。 ③地域課題や職業をテーマにした学習活動の実践。	①ティームティーチングの授業展開を行うなど「分かって楽しい授業」を実施した。 ②多くの授業でＩＣＴを活用した授業展開がスタートした。 ③全教員が総合的な探究の時間を担当し、ファシリテータとして地域課題や職業についての学習活動を実践することができた。	A	・ティームティーチングの授業展開に興味がある。 ・ICTを活用した授業は素晴らしい一言。ファシリテーターの役割の重要性が高まる事で、先生方はこれからブラッシュアップしなければならない。 ・学校が課題としている「基礎学力の定着」につなげるように期待する。	・ＩＣＴ機器を活用した授業や活動を学校全体で推進する。 ・授業アンケート等を参考にし、より効果的な取組を行う。 ・総合的な探究の時間を活用し、地域理解・郷土愛を育み、地域課題解決に向けた学習活動を継続する。
3	①基本的生活習慣の確立と定着を図る。 ②地域・家庭との連携を図る。 ③いじめに関する未然防止対策やＳＮＳ等の利用方法を適切に指導する。	①登校指導、容儀指導を実施し、時間厳守や基本的生活習慣確立の大切さを理解させる。 ②地域や家庭との連携を強化し、生活指導の充実を図る。 ③いじめアンケートや家庭生活アンケートの定期的な実施とスマホ安全教室の実施。	①登校指導、容儀指導など学校生活のサイクルを考慮しながら、それぞれ重点目標をもって指導を行った。 ②町内の生徒指導連絡協議会に出席し、情報共有・提供した。生徒指導だよりを発行し保護者への協力を呼びかけた。 ③いじめアンケート（３回）、家庭生活アンケート（２回）を実施した。	A	・家庭、学校双方でのしつけや指導、地域との関わりや取組が重要、ＰＴＡや地域関係者等とも連携・連絡を密にし、早期の対応に心がけていただきたい。 ・学校教育目標を今一度、保護者会（ＰＴＡ）において、確認、認識、課題とするべきではないか。 ・学期末の便りの中に、生活面での指導内容を入れるなど、指導の進捗を盛り込むなどの方法も有効ではないか。	・教職員全体が共通理解のもと、登校指導や容儀指導を実施する。 ・地域や家庭との連携を密にするために、ホームページだけではなく、学年、学級通信などによる周知・連絡を適宜行う。 ・いじめアンケートや家庭生活状況アンケートを有効的に活用し、生徒指導に活かし、未然防止に努める。
4	①キャリア教育指導体制の整備・充実を図る。 ②生徒が主体的に進路活動ができるように多様なインターンシップを行う。 ③家庭や地域との連携を密にし、理解と協力を得ながら進路指導にあたる。	①全教員が共通理解のもとに、計画的・効果的な指導を行う。 ②地域の協力を得ながら、望ましい勤労観・職業観を育成し、社会的職業の自立を促し、生徒一人ひとりの進路志望を実現する。 ③進路に関するさまざまな情報を保護者へ提供する。また、おいらせ町の支援事業を積極的に活用して資格取得を推進する。	①3学年の面接指導を全教員で行うなど協力して指導にあたった。 ②新型コロナウイルス感染防止対策のためインターンシップを行うことができなかったが、総合的な探究の時間を活用したり、進路ガイダンスを効果的に実施した。 ③学年通信、進路だより、保健だよりなどで学校情報を保護者へ向けて発信した。また、各教科においては、各種資格取得へ向けて講習を実施した。	B	・コロナ禍の中でインターンシップが実施できないのであれば、貴重な体験を積まれている卒業生や県内外の関係者（同窓会・おいらせ会）から実体験を直接聞くことも生徒の刺激になるのではないか。 ・おいらせ町の支援事業や外部のサポート等を積極的に利用してみてはどうか。	・コロナ禍でのでインターンシップの実施、また、それに代わる行事やＯＢ・ＯＧの講演など、生徒の夢実現への取組が停滞することなく実施できるよう検討していく。 ・3年間を見据え、系統立てたキャリア教育を、教職員の共通理解のもと実施できるようにしたい。 ・キャリア教育として、進路活動にとどまらず、ボランティア活動や校外活動についても積極的に参加できるように検討する。
(11) 総括		新学習指導要領での教育課程が滞りなく展開されるようにする。ICT機器を使った授業展開を推進し、より分かって楽しい授業の実施に努める。インターンシップを含め3年間を見通したキャリア教育を進めると共に、ボランティア活動等を通した地域との連携、つながりを大切にしたい学校づくりを進める。進路活動に関しては、面接指導など全教職員による3年生の進学・就職指導を行い、生徒一人ひとりの進路決定に向けた取組を充実させる。保護者への情報発信として、ホームページ等の更新を積極的に行いたい。				